

## 「いわい東米」で使用している農薬の説明

商品名	主成分を示す一般的名称 (農薬の種類名)	使用目的 (摘要病害虫・雑草)	使用量	使用時期	使用回数
テクリード水和剤 ※1	イプロナゾール	種子消毒 (苗いもち病・ばか苗病・ごま葉枯苗 苗立枯れ苗)	吹付 7.5倍	浸種前 ※種子購入時には吹付処理済	1回
ダコニール1000	TPN水和剤	苗立枯れ苗予防	土壌かん注 1,000倍液→0.5リットル/育苗箱	種蒔き時	1回
デラウスプリンス箱粒剤 ※2	フィプロニル ジクロシメット	葉いもち病・初期害虫防除 (イネミズゾウムシ・イネドロオイムシ等)	育苗箱の上から均一に撒布する。 50g/育苗箱	種まき時(覆土前)～ 田植え当日	1回
ウインダントツ箱粒剤 ※3	クロチアニジン カルプロパミド	葉いもち病・初期害虫防除 (イネミズゾウムシ・イネドロオイムシ等)	育苗箱の上から均一に撒布する。 50g/育苗箱	田植え3日前～ 田植え当日	1回
ミスターホームラン剤 ※4	オキサジクロメホン クロメプロップ ベンスルフロンメチル	雑草防除	フロアブル 500ml/10a	田植え直後～12日後	1回
			粒剤 1kg/10a	田植え後5日～12日後	
			ジャンボ剤 500g/10a	田植え後3日～10日後	
バサグラン粒剤・液剤	ベンタゾン	雑草防除	粒剤 3～4kg/10a	田植え後15日～50日	1回
			液剤 500～700ml/10a (希釈水量10～100L)		
コラトップ粒剤・ジャンボ剤 ※5	ピロキロン	穂いもち病予防	粒剤 4kg/10a	出穂20日前～5日前	1回
			ジャンボ剤 600g/10a		
スミチオン粉剤・乳剤	MEP	カメムシ防除	粉剤 3～4kg/10a	穂揃い期～ 穂揃い1週間後	1回
			乳剤 1,000倍液→ 100リットル/10a		

※1 種子更新率を100%行うこととしており、岩手県農産物種苗センターで調整及びテクリード水和剤を吹付け処理した種子を使用しています。

※2 藤沢営農センター管内を対象とし、育苗センターで播種時に撒布処理を行い、田植えの作業軽減を図っています。

※3 千厩・大東・東山・室根・川崎営農センター管内で使用しています。

※4 田植え直後から使用できる剤(フロアブル剤)があるものを選定し大規模圃場での田植え同時散布を行い、作業効率を上げています。

※5 ラジコンヘリコプターによる集団防除を行い、散布時期のバラツキをなくし防除効果を上げています。